

特別公開

国宝・彦根屏風

令和6年4月25日(木) ▶ 5月14日(火)

近世初期風俗画の傑作、国宝・彦根屏風を特別公開します。



風俗図(彦根屏風)

テーマ展

茶壺 — 武家の美意識 —

令和6年5月17日(金) ▶ 6月18日(火)

茶壺は、茶の湯の葉茶を入れる容器です。その堂々たる姿から、信長や秀吉をはじめとする戦国大名に愛され、江戸時代に入ってから、大名家の格式を示す道具として尊ばれました。本展では、井伊家伝来の茶壺の優品を一堂に展示し、その収集と賞翫の歴史を紹介します。



褐袖四耳壺

企画展

青根九江 — 京で花開いた彦根の文人画家 —

令和6年6月21日(金) ▶ 7月23日(火)

青根九江 (1805~54)は、彦根城下の商家に生まれ、京に出て、人気の文人画家、山本梅逸の門で学び、同地で活躍した絵師です。中国の明清画の画風を採り入れた華やかな花鳥画を得意とし、京の著名人名録『平安人物志』にも名を連ねました。本展は、九江の画業を通覧する初めての展覧会です。



花鳥図 青根九江筆(個人蔵)

彦根城博物館スケジュール 令和6年4月 ▶ 令和7年3月

Hikone Castle Museum Exhibitions

テーマ展

井伊の赤備え — 勇猛なる軍団 —

令和6年7月26日(金) ▶ 8月28日(水)

武勇で聞こえた「井伊の赤備え」。関ヶ原合戦や大坂の陣などで活躍した井伊家初代直政、2代直孝をはじめとする当主や家臣の甲冑、刀、旗印、定書等を一堂に会し、展示します。



関ヶ原合戦図(部分)



朱漆塗仏一枚胸具足

テーマ展

金のきらめき — 輝きの日本美術 —

令和6年10月2日(水) ▶ 11月4日(月・休)

洋の東西そして時代を問わず、金は人々を惹きつけてきました。日本でもその希少性と美しさから聖性の象徴とされ、工芸品の素材としても多様な発展を遂げてきました。当館収蔵品を通して、その輝きの役割や多彩な表現を紹介します。



金梨地牡丹唐草能道具蒔絵鞍・鏡



阿弥陀三尊来迎図のうち阿弥陀如来像(高宮寺蔵)

企画展

井伊直興と永源寺南嶺慧詢

令和6年8月31日(土) ▶ 9月29日(日)

篤い仏教信仰を持った井伊家4代直興(1656~1717)と、彦根藩領内にある臨済宗の名刹・永源寺86世南嶺慧詢(1629~1714)。直興は南嶺に帰依し、自身や家族のためにさまざまな法要を行わせるなど、親密な関係を築きました。2人の人物像や関係について、古文書やゆかりの品などから紹介します。



南嶺慧詢頂相(松雲寺蔵)



井伊直興画像(永源寺蔵)

テーマ展

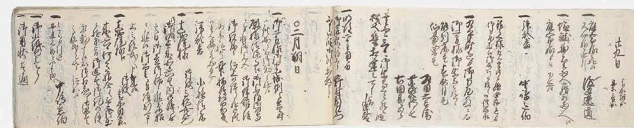
大名家族の日常 — 儀礼から遊興まで —

令和6年11月23日(土・祝) ▶ 12月24日(火)

彦根藩主とその家族は、様々な儀礼に参加する傍ら、武芸や文芸に取り組みなど、公私にわたって多彩な生活を営んでいました。井伊家10代直幸の時代を中心に、側近の家臣や奥女中が残した日記等から大名家族の日常に迫ります。



黒漆塗貝蒔絵煙草盆



広小路御屋鋪御留帳

テーマ展

吉祥 — 招福の意匠 —

令和7年1月1日(水・祝) ▶ 2月2日(日)



金地蓬萊園中啓

松竹梅や鶴亀、鳳凰さらには扇から唐子まで、日本では、多種多様なものが福をもたらすめでたい存在とされてきました。吉祥に彩られた品々を通して、新年を華やかに言祝ぎます。



唐子遊園(個人蔵)

特別公開

雛と雛道具

令和7年2月22日(土) ▶ 3月16日(日)

*3月11日(火)は休館

井伊家13代直弼の愛娘弥千代(1846~1927)の大揃いの雛道具を、地元の旧家に伝来した古今雛や御殿飾りなどとともに一挙公開。春の訪れを告げる恒例の展示です。



弥千代の雛道具(屏風・小袖・挟箱・三翻)

テーマ展

井伊家と能 — 大名文化の精華 —

令和7年3月20日(木・祝) ▶ 4月20日(日)



能面 若女

能装束 紅萌葱茶段流水に菊文様唐織

能が幕府の式楽に定められ、諸藩でも盛んに行われた江戸時代、彦根藩井伊家においても喜多流の能が浸透し、当主やその子弟、家臣らも謡や鼓などを嗜みました。大名家と能の関わりを、華やかな能道具、井伊家伝来の古文書とともに紹介します。